

令和4年度 広島県スポーツ指導者研修会



令和5年1月14日(土)、2月23日(木・祝)いずれも広島国際会議場において、広島県スポーツ指導者研修会を開催した。新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、参加者も先着300名までの申込者に限定した。

1月14日の研修会では、東京(2020)、ロンドン(2012)オリンピック 陸上競技女子100mハードル日本代表選手であり、現在は、エディオン女子陸上競技部一般種目ブロックコーチとしてご活躍の木村文子氏による「世界の舞台を目指して」と題した講演に続いて、本会指導者養成委員会副委員長 金澤宏氏による「スポーツ指導者の役割・心得」と題した講話を行った。

2月23日の研修会では、本会指導者養成委員会委員長 眞藤邦彦氏による「スポーツ指導者の役割・心得」と題した講話に続いて、元サンフレッチェ監督で、現在は、日本サッカー協会技術委員会副技術委員長としてご活躍の小野剛氏による「スポーツの可能性～今スポーツにできること～」と題した講演を行った。

眞藤邦彦氏と金澤宏氏の講話は、指導者とプレイヤーの望ましい関係づくりのために必要な知識や考え方等について、アクティビティーも交えて行われ、参加した指導者は、自らの指導者スキルの向上に繋がる話に熱心に聞き入っていた。

(木村文子氏と小野剛氏の講演の概要を2～3ページに掲載)



世界の舞台を目指して

講師 木村 文子

- ・エディオン女子陸上競技部一般種目ブロックコーチ
- ・東京(2020)、ロンドン(2012)オリンピック 陸上競技女子100mH 日本代表



●スポーツは楽しいと思う事の大切さ

さまざまな運動の遊びというのは、小学校の時代は指導者の先生が考えてやってくださっていたと思うのですが、スポーツ、体を動かすことが楽しいという思いを小学校時代にさせていただいたことは、今振り返ると、とても大きなスポーツに触れ合う入り口だったのかなと思っています。

スポーツが楽しいという部分に関しては、幼少期と小学生時代だけではなく、大人になっても、その思いというものは忘れてはならないのかなとすごく感じています。

自分は日本スポーツ協会が作成した日本版アスリート育成モデルに沿った形に自然となっていたのかなと思うと、本当に指導者の方々に感謝したいなと思いますし、広島でそういう環境下でやらせてもらったということが大きいので、このモデルも参考にしつつ指導していただけると、いろいろな子どもたちがスポーツは楽しいと思って競技に触れてくれるのではないかなと思っています。

●スポーツを通し協働していくことの大切さ

これは中高生たちにも伝えていることですが、何々オリンピックに出ましたとか、例えば日本選手権で優勝しましたとか、この結果だけを見るとすごいことだと思うのですが、私のなかでは、協働していくことの大切さというのがスポーツをやっていて一番価値のあることかなと思っています。

私1人がオリンピックに行きたいという思いを目標に掲げて、その目標に賛同してくれる人たちが、これだけたくさんいるのだと思うと、本当に周りの人に支えられていますし、周りの人と一緒に協力して目標を達成していくことにこそ、スポーツにはすごく価値のある、力のあることかなと思っています。

オリンピック選手になることもすごく価値のあることですが、実は私のトレーナーさんは、オリンピック選手になりたかった方なのですが、長距離をされていた方で、中高生時代にもなれるかもよと言われて育ってきたとおっしゃっていたのですが、結果、けがでなれなかったという経験を踏まえてトレーナーさんになられたので、違ったかたちでオリンピックと一緒に出場することができた、戦えることができたということもスポーツを通してではないとできないことなのかなと思っています。

指導者の皆さんも、一緒にオリンピックに行く、行かないというよりも、その選手が育っていく過程で絶対どこかで携わっていかれる皆さんだと思うので、本当にいろいろところで子どもたちに接してあげていくことがとても大切なと思いますし、私自身、オリンピックに出ても、オリンピックに出たことも、もちろん価値のあることなのですが、周りの人と一緒に目標を達成できるような環境を与えてもらったことの方が私の中では一生ものなのかなと思っていますので、そういう協働していくことの大切さを学ばせてもらったなと思います。





未来を、ひろげる。

私たちは、お客さまに寄り添い、声に耳を傾け、真に信頼される〈地域総合サービスグループ〉としてお客さまとともに、この地域の未来をひろげます。

 **HIROGIN HOLDINGS**

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんキャピタルパートナーズ | ひろぎんITソリューションズ
ひろぎんリース | ひろぎんエリアデザイン | ひろぎんヒューマンリソース

(2022年4月1日現在) [2207]

スポーツの可能性 ～今スポーツにできること～

講師 小野 剛

- ・公益財団法人日本サッカー協会技術委員会副技術委員長
- ・元サンフレッチェ広島 監督



●勝者があり、敗者があるからこそ、美しく、素晴らしい

ウエルビーイングということを言うと、勝つとか負けるとかではないのですね、勝たなくてもいいのですねと、短絡的に言ってしまうが、どんな子どもでも、やっぱり勝ちたい、だからこそ楽しい、勝ちたいという思いなくしてウエルビーイングはないと思います。

ただ、指導者が負けを扱うことができないと、負けを怖がってしまうから、勝ち負けがないようにしよう、勝っても負けてもいいよになってしまう。

そうではなくて、子どもは、みんな勝ちたくて一生懸命やって、それで勝ったらうれしい、でも負けても素晴らしい、その負けの素晴らしさと、指導者が負けから何を引き出せるかということ、その腕を持っていないと、負けから逃げてしまい負けることに対する恐れは将来への意欲をそぎ落としてしまいます。これはブラジル代表のルシエンポ監督の言葉です。「スポーツである以上、そこには勝者と敗者が存在し、子どもでも勝者はすべてを手に入れ、敗者はその傍らでひざまずく、それが定め」これは子どもでもやっぱりそうだと思うのですが、全力で勝とうと思ってやる、勝ったら喜び、負けたらひざまずく、では、敗者に価値はないのかといたら、勝者があって敗者があるからこそ美しく、だからこそ敗者にも素晴らしい価値がある。子どもであっても、やっぱり勝ちたい、そこに楽しさがある、でも、負けても、そこから逃げないで、そこから学びがあるというふうになっていくこと、これが今すごく大事な事かなと思っています。

ネルソン・マンデラの言葉ですが、「私のなかに負けという言葉はありません。勝利か学びか、そのどちらかです」と、ここに行き着けるのではないかと思います。

●今スポーツにできること

競技をする側だけではワールドカップにはたどり着けないのです。

だからみんなのスポーツになっていかないといけない。

あの人がやっているサッカーでしょう、あの人がやっているバスケットでしょう、あの人がやっているラグビーでしょうではなく、プレーする、しないは別に、やっぱりみんなの関心で日常になっていくということがどれだけ大事かということです。

そのためには、いろいろな人を巻き込んでいくところがすごく大事だと思います。

誰もが、インクルーシブ、老若男女、ディスエーブルの人とか、シニアの人とか、いろいろな人が入ってこられる、これはスポーツ共通のすごく大事なことで、これからさらに大事なことになるのではないかなと思いますし、それが、スポーツが世の中に貢献できることであり、世の中から我々がそれを今度は享受することになる、それがシナジーだと思います。

今スポーツができること、こうやって世の中に貢献できる、その貢献がさらにスポーツ界を豊かにしてくれるのではないかと僕は信じています。



MAZDA CX-5
あたらしい地図を、走れ。



令和4年度

叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章者

公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞受賞者



叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章者

叙勲

瑞宝小綬章(教育研究功勞)

小村 堯 一般財団法人広島県水泳連盟顧問・前副会長

瑞宝小綬章(教育研究功勞)

東川 安雄 一般財団法人広島陸上競技協会副会長
公益財団法人広島県スポーツ協会評議員

瑞宝単光章(消防功勞)

佐々木 学 安芸高田市体育協会副会長

瑞宝単光章(消防功勞)

藤澤 秀樹 一般財団法人広島県バレーボール協会参与
福山バレーボール協会会長



文部科学大臣表彰

(生涯スポーツ功勞)

大中 恒男 広島県スケート連盟会長・広島県アイスホッケー連盟会長

岡本 甫 広島県バドミントン協会副会長

灰原 利彦 一般財団法人広島陸上競技協会事務局長

堂本 ひさ美 公益財団法人広島県スポーツ協会常務理事

関口 昌和 総合型地域スポーツクラブ全国協議会副幹事長・広島県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会幹事長

(スポーツ推進委員功勞)

比本 学志 一般社団法人尾道市体育協会会長

令和4年度公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞受賞者

功勞者の部

内田正(陸上)、佐藤隆政(水泳)、吉田清(柔道)、上野孝史(剣道)、高田知佳(フェンシング)、松本英唯、藤岡幸一(軟式野球)、行武長治(バスケットボール)、重野陽一、大石陽介(バレーボール)田村忠士、堀池崇子(ソフトテニス)、詫間西、渡邊裕宜(体操)、皿田直美、森本三千夫(ボート)、東健治、石井憲和(スキー)、村井仁(山岳・スポーツクライミング)、末広厚美(なぎなた)、榊田光男(少林寺拳法)、田村洋二、木原政弘、竹野下佳津子、土井哲則(広島市)、藤平高憲、繁原修(呉市)、藤岩秀樹、神波昌幸(尾道市)、高橋一壽、南原敏哲、平櫛由美(福山市)日域学(大竹市)、沖利昭、沖和博(府中町)、荒滝一浩(熊野町)、野依英二(高体連)、岡崎常雄、松田相悦(スポーツ少年団)

国際大会優秀の部

陸上	眞野友博(九電工)
水泳(AS)	比嘉もえ(広島市立観音中学校) 新佳乃子(広島市立観音中学校)
バスケットボール	梶谷崇太(広島県立広島皆実高等学校) 大上粹奈(広島県立広島皆実高等学校) 三次真歩(広島県立広島皆実高等学校)
カヌー	岡崎七星(学校法人角川ドワンゴ学園N高等学校)
アーチェリー	天神聡子(広島県立佐伯高等学校)
武術太極拳	小櫻果(呉工業高等専門学校)
パワーリフティング	亀谷充男(㈱エイテック)

全国大会団体優勝の部

水泳	広島県選抜 160歳混合4×50mフリーリレー 280歳混合4×50mメドレーリレー 280歳女子4×50mフリーリレー 280歳女子4×50mメドレーリレー
剣道	広島県選抜(中学生の部)
サッカー	サンフレッチェ広島
ソフトボール	尾道市立御調中学校 広島県選抜(中学生女子)
バレーボール	原南バレーボールスポーツ少年団
ソフトテニス	NTT西日本ソフトテニス部 どんぐり北広島 中国電力株式会社 JFE西日本A 広島A(女子2人チーム)
卓球	広島学院高等学校登山部
ポウリング	
登山	



功勞者 吉田清(柔道)



国際大会優秀 新佳乃子(AS)



全国大会団体優勝
尾道市立御調中学校(ソフトボール)

全国大会個人優勝の部

<p>陸上</p> <p>安立雄斗(福岡大学) テレシア ムッソーニ(タイソー) 勝勝玲海(九州共立大学) 尾濱太陽(広島県立西条農業高等学校) 三好美羽(福山市立神辺西中学校) 筑後蒼人(竹尋アスリートクラブスポーツ少年団) 谷本七星(名城大学)</p> <p>水泳(AS)</p> <p>水泳(競泳)</p> <p>西井照善 高尾光一 大木悟 上野慎司 末岡真由 大木あい 横山桂子 下家佐江子 松本純江</p> <p>柔道</p> <p>高原健伸(崇徳高等学校) 落合倅(広島市立沼田高等学校)</p> <p>剣道(杖道)</p> <p>宮脇誠吾(三原年金事務所) 矢鋪祐司(日本たばこ産業(株)医薬総合研究所)</p> <p>相撲</p> <p>寺尾拓真(日本体育大学) 古田賢悟(日本体育大学)</p> <p>レスリング</p> <p>山中彬(株中電工山口統轄支社) 西尾羽珠(東広島市立坂城小学校)</p> <p>テニス</p> <p>ソフトテニス</p> <p>内本隆文(NTTビジネスソリューションズ(株)) 内田理久(NTTフィールドテクノ ネットワークデザイン部)</p>	<p>ソフトテニス</p> <p>高橋乃綾((一財)どんぐり財団) 半谷美咲(アザレア千代田) 上松俊貴(NTTビジネスソリューションズ(株)) 広岡宙(NTTビジネスソリューションズ(株)) 佐藤心美(広島翔洋高等学校) 杉本希(広島翔洋高等学校) 直原隆司 井絢乃(中国電力(株)) 成本綾海(中国電力(株)) 黄飛 井手迫江里 畠山涼子</p> <p>卓球</p> <p>島田遼(GAN TRIGGER) 山本亮(戸田工業(株)) 堀井正雄(広島工業大学) 佐古浩 豊澄麻希(広島なぎさ中学校) 岡陽奈乃(広島市立石内小学校) 河田悠希(株エディオン) 佐藤さなみ(東広島市立磯松中学校) 石本美来(JFEスチール(株)) 難波江康雄(廣本鉄工所(株)) 亀谷充男(株エイテック)</p> <p>自転車(BMX)</p> <p>ウエイトリフティング</p> <p>セーリング</p> <p>スケート</p> <p>アーチェリー</p> <p>なぎなた</p> <p>ボウリング</p> <p>パワーリフティング</p>
---	--

新記録の部

陸上	福部真子(日本建設工業)
パワーリフティング	亀谷充男(株エイテック)

第77回国民体育大会優勝及び入賞の部

冬季大会の入賞者は、第143号に掲載
本大会の入賞者は、前号(145号)に一覧を掲載

第77回国民体育大会入賞競技団体の部

- 第3位 広島県ソフトテニス連盟
- 第4位 一般社団法人広島県卓球協会
- 第6位 一般社団法人広島県ホッケー協会
- 第7位 広島県テニス協会
- 第8位 広島県ラグビーフットボール協会

令和4年度優秀指導者

松谷清志	(陸上競技男子監督 広島県立広島皆実高等学校)
中森昭平	(レスリング監督 広島県立賀茂高等学校)
小菅正幸	(セーリング監督 (株砂原組))
堀 晃大	(ソフトテニス成年男子監督 NTTビジネスソリューションズ)
馬渡 崇	(ライフル射撃監督 NTTコミュニケーションズ(株))
深田泰正	(カヌースラローム・ワイルドウォーター監督 安芸高田市役所)



全国大会個人優勝 安立雄斗(陸上)



優秀指導者 中森昭平(レスリング)



国体優勝及び入賞 森川清司(ライフル射撃)



国体入賞競技団体 ソフトテニス



受賞者を代表して謝辞を述べる
石本美来(ボウリング)

未来を、
こうしよう!

私たちは、描いているビジョンがあります。
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献しているよう、
これからの時代のニーズに合わせて進化し続けるながら、
みなさまとともに歩んでいきます。



屋内電気工事

空調管工事

情報通信工事

配電線工事

送変電地中線工事

リニューアル工事

エネルギー関連工事

環境関連工事



中電工

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp

「スーパージュニア選手育成プログラム2022」第4回体験プログラム



12月10日(土)の第4回体験プログラムは、午前はボウリング、午後からはバレーボールを実施しました。

午前中のボウリングは、広島県ボウリング連盟のご協力のもと、広島市中区にある広電ボウルで開催しました。

最初にボウリングの基本的なルールを教えてください。続いて、国体で活躍する講師の方々の模範投球を見せていただいた後、投球フォームの練習です。はじめはボールを持たずに正しいフォームを身に付けます。フォームがさまになってきたところで、よいよ自分に合ったボールを持って、練習投球開始です。



練習投球が終わると、ゲーム形式で2ゲームのスコアをとりました。力のあるボールでストライク・スベアを取る選手もいて、お互いに良かった時はハイタッチで喜びあう姿も印象的でした。個人競技のイメージが強いボウリングですが、国体など様々な大会で団体戦があるので、こうしてチームを盛り上げる雰囲気は大切です。奥の深いボウリングに興味を持って、スポーツとして競技として続けていく選手が出て嬉しいです。

午後からは、会場を猫田体育館に移動して、JTサンダースOBの方々のご協力のもと、バレーボールの体験プログラムを開催しました。



最初に準備運動をしたあと、2人1組になってキャッチボールをしてボールに慣れていきます。次にアンダーハンドパス、オーバーハンドパスの練習をします。講師の方が周って丁寧に教えてください。正しいフォームを身に付けることができました。

次は、一人ずつ順番にスパイクの練習です。実際にやる前に、JTサンダースOBの八子選手にお手本をみせてもらいました。鋭いスパイクに選手たちは圧倒されている様子でした。



最後はお待ちかねの試合です。男女・学年で別れてチームを組んで対戦しました。試合が始まると、最初は、声を出し合っていなかった選手たちも、途中から声を出し合う重要性を知り、声を掛け合うようになりました。点が入るとチームでハイタッチをするなど盛り上がっていました。

今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会副委員長で広島女学院大学教授の下岡里英先生による「小学生期におけるスポーツと食事について」の講話でした。

スポーツのための正しい食生活を身につけることの重要性等についてお話しいただきました。また、現在の食物摂取状況などのアンケート調査を行い、その分析による解析や指導助言・相談などが今回のプログラムで個別に実施されます。

スポーツ栄養の考え方による正しい食生活を身につけるためには各家庭の役割が非常に大きいところです。ジュニア選手の育成のために、サポートをよろしく願います。

「スーパージュニア選手育成プログラム2022」第5回体験プログラム

12月17日(土)の第5回体験プログラムは、午後からスピードスケートを実施しました。

広島市東区のひろしんビッグウェーブで、広島県スケート連盟のご協力のもとに、スピードスケート(ショートトラック)の体験プログラムを開催しました。

スケートリンクに入る前に、スケート競技(スピード、フィギュア、アイスホッケー)の説明を聞いた後、スケート靴、肘・膝のサポーター、ヘルメットを借りて、リンクサイドに集合です。

最初は、氷上での歩行練習で、壁から手を離してゆっくり歩きながら氷上に慣れていきます。スーパージュニア選手だけにどの選手も壁から手を離して、少しずつ滑れるようになってきました。

次に3グループに分かれて滑走の練習です。ゆっくり両足で前に進めるようになったら、片足での滑走、体重移動、止まり方などを教えてください。カラーコーンを置いて小さな周回コースを滑走する練習では、最初に比べて転ぶ回数がぐんと減り、上達を感じることができました。上達してきた選手の中には、クロスをする様子も見受けられました。



最後は、男女別に、3人から4人一組で一週のレースです。男子は、各組1着、女子は、2着までが次の決勝に進みます。ゴールが近くなると気持ちが焦って「滑る」より「走る」になってしまうのは、毎年恒例の風景です。参加した選手全員が、コース一周を滑り切りました。予選で勝ち上がった男女別のそれぞれ上位による決勝レースを行いました。決勝に残った選手には広島県スケート連盟から各順位の表彰状が授与されました。



今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、前回実施した食事調査の回答を踏まえた個別懇談でした。担当する6名の先生から、各選手の回答を踏まえた具体的なアドバイスが行われました。ジュニア選手育成の家庭でのサポートに参考となることを期待します。

「スーパージュニア選手育成プログラム2022」ファイナルトライアル

令和5年1月21日(土)に、広島県立総合体育館小アリーナにおいて今年度最後のプログラムとして、体のバランストレーニングと運動適性テストを行いました。

午前は、第3回体験プログラムでも実施した「体のバランストレーニング」を行いました。講師は第3回と同じく、一般財団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーです。

体の軸・重心を安定させるトレーニングや、効率的な体の動かし方などを教えてもらいながら実践しました。特にスポーツをする上で大切なコア(腹筋・背筋など)を鍛えるトレーニングは、一見激しい動きには見えませんが、全身を使った運動なので選手たちからは「きつい」と悲鳴があがります。

今回は、平均台や跳び箱、マットを使ったトレーニングも行いました。そして、最後は学年男女別対抗で、色々な場所に散らばったマーカーを自陣に持って帰るゲームを行い、負けたチームにはカエルジャンプのトレーニングが待っています。競い合う中でも楽しみながら体の切り返し方や効率的な動き方を学ぶことができました。

自分の身体を思うように操る技術(コアの使い方)は、どのスポーツをするにも重要になるので、教わったことを継続して実施してくれると嬉しいです。

今回の保護者を対象に行った最後のサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員の櫻井由佳先生による「スポーツ活動中の水分摂取」の講話でした。スポーツ活動中の熱中症の予防について、どのような症状がでるのか、どのようなことを対策すべきなのか、具体的に説明をしていただきました。

午後は、この育成プログラムの締めくくりとして、5月に行ったトライアルと同じ内容の運動適性テストを行いました。上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈、40m走、ソフトボール投げ、20mシャトルランの6種目を実施し、自分の記録を確認しました。

最後に、全員に修了証とすべてのプログラムに参加した選手に皆勤賞が交付され、スーパージュニア選手育成プログラム2022は完了しました。

今年度は計5回のプログラムを通して7競技を体験することができました。色々な技術を習得しやすい「ゴールデンエイジ」と呼ばれる小学校高学年の時期に、多くのスポーツと仲間に出会うことができたのは、選手の皆さんにとって貴重な経験になったと思います。これからも様々なスポーツ・体育のイベントに積極的に参加して、自分の特性を磨いていけることを期待します。

また、保護者の皆様には、毎回の引率、サポートプログラムへの出席など、御協力ありがとうございました。スポーツ選手の育成には、家庭でのサポートが欠かせません。このプログラムで得られたことを活かしていただき、子どもたちの成長をしっかりと見守っていただきたいと思います。

最後になりましたが、今年度も広島県小学生体育連盟の先生方、T&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方ならびに広島文教大学の学生の皆さんなど、多くの方にご支援・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。



令和4年度 広島県スポーツ少年団指導者研修大会 単位スポーツ少年団・市町スポーツ少年団事務担当者会議

令和5年3月19日(日)広島国際会議場において開催し、県内各地から約100人が参加した。

研修会では、広島女学院大学教授で本協会スポーツ医・科学委員会副委員長の下岡里英氏による「成長期の子どもの栄養を考える」と題した講演を行った。事務担当者会議では、令和5年度の広島県スポーツ少年団事業計画や助成事業、登録手続き等について説明した。

また、会議に合わせて、令和4年度日本スポーツ少年団顕彰伝達式及び広島県スポーツ少年団顕彰式を開催した。受賞者(団)は次のとおり。

日本スポーツ少年団顕彰(伝達)

登録指導者 斎藤雅照(広島市)、泉一成(三次市)、浅田和義(熊野町)、上原範久(熊野町)

広島県スポーツ少年団顕彰(顕彰式)

単位スポーツ少年団 拳志館安芸スポーツ少年団(広島市)、加茂剣友会スポーツ少年団(福山市)
新市ジュニアジャガーズスポーツ少年団(福山市)

登録指導者 上田晶(広島市)、三浦勝司(広島市)、益成貴弘(広島市)、荒川堅太郎(呉市)
和田昌則(呉市)、住井昇司(福山市)、加藤尚(三次市)、小島寛子(安芸高田市)、仁井本敏昭(熊野町)

退任指導者 本川清(広島県)



最強の実業団呉海軍工廠、礎は軍服の技術士官

戦艦「大和」を建造し戦後解体した旧呉海軍工廠は、最盛期10万人の従業員を擁した巨大軍事工場だった。半面、野球や陸上、バレーボールなど実業団トップ級の実力を誇った。発端は明治期、工員の虚弱体質を嘆いた技術士官(将校)による野球奨励策だった。

軍港呉は1889(明治22)年の海軍呉鎮守府開庁から歩み始めた。同時に軍艦建造の造船廠、兵器製造の造兵廠を建設し1903(同36)年、統合して呉海軍工廠となった。この間、帝大工科大(現東大工学部)を卒業、英国留学を経て1894年に呉鎮守府造船部へ赴任したのが技術士官(海軍造船少技士)山田佐久だった。

1926年発刊の「呉野球史」(中谷白楊著)によれば、着任した山田はひ弱な工員や結核にかかる従業員の姿に、作業効率の低下を懸念した。「虚弱な体質を改善するには、体を動かす野球に親しませよう」と奨励した。1898(同31)年ごろ造船廠の製図部門で2チームが生まれ、山田も練習に立ち合った。工場拡充とともに次第にチームは増加した。造船、造機、造兵、製鋼、砲煩、水雷など各部門がしのぎを削った。山田は通算20年間呉工廠に勤務し1913(大正3)年、造船部長(造船総監)を最後に去った。一方で、廠内チームを中心に翌14年呉野球大会が始まり、中国新聞呉支局は県下野球大会を開催した。2年後には呉野球協会が誕生し、呉体育協会が発足した。

工廠にまいた種は大きな実りをもたらした。野球チームは早大や慶大との招待試合に備えて「全呉軍」を組織し、無敵ぶりを発揮。1927(昭和2)年からの都市対抗野球大会には中国地方代表として10度の出場を誇った。野球どころとなった呉からは大正(のちの呉港)中学校が夏の甲子園で全国制覇(1934年)。大黒柱、藤村富美男や広島商-法大の中心選手、鶴岡一人らプロ野球に進む好プレーヤーを輩出したが、彼らの多くは親族が工廠勤務だった。

野球熱に刺激され、工廠内ではバレーボールが職場レクリエーションから、壬子(じんし)倶楽部へ発展し呉水雷クラブも対抗、腕を磨きあった。水雷クは1932年に全日本選手権を制覇、翌年には全呉工廠チームに統合して夏の全日本、秋の明治神宮大会で常に上位を占め3度全国優勝を果たした。

陸上では1923(大正12)年、工廠内のアスリートたちが「呉オリンピック倶楽部」を結成した。短距離の三宅正之、長距離の三村賢治は当時の国際大会、極東大会日本代表となった。呉中学校(現呉三津田高)時代、オリンピック勢の練習に参加した住吉耕作は、早大で1928年アムステルダム、32年ロサンゼルス両五輪やり投げ代表となった。呉オリンピックは1931年に始まった福山-広島間中国駅伝で圧倒的な強さを示した。このほか、卓球の全日本東西対抗個人チャンピオン(1931年)が生まれ、サッカーやラグビーも奮戦した。

工員に野球を勧めた山田は1866(慶応2)年生まれ。1879(明治12)年、東京の私塾攻玉社幼年科(現攻玉社中・高校)で学んだ。同学園資料室によれば1884年に卒業し工部大学校へ進学した。国立の工業教育機関である同大学校は毎日1時間、「体操」と称して器械体操のほかベースボール(野球)、クリケットなどの球技が必須科目であった。中でも野球は人気を集め、有志は対外試合に臨んでいた。山田はその後、統合新設された第一高等中学校(のちの旧制一高)へ進む。ここではベースボール部が発足していた。山田が加わっていたかは定かではないが、呉工廠での野球奨励の素地は、学生時代に端を発しているのは間違いない。

県都広島市や福山市の野球が、広島中学(現広島国泰寺高)や広島師範(現広島大学教育学部)、福山中学(現福山誠之館高)から出発したのに対し、呉は海軍技術士官の発案が出発点であった。造船中將に昇進後退役した山田は1940年、75歳で没した。(文中敬称略)

広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)



呉海軍工廠で野球を広めた山田佐久
〔「呉野球史」から〕

さあ、ともに 未来へ!

ラグビー部

陸上競技部

女子卓球部

中国電力はシンボルスポート部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社

<https://www.energia.co.jp/>